

ムギ類赤かび病情報第2号

平成22年4月28日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

今後の気象状況に注意しましょう

1 ムギの生育状況と防除適期

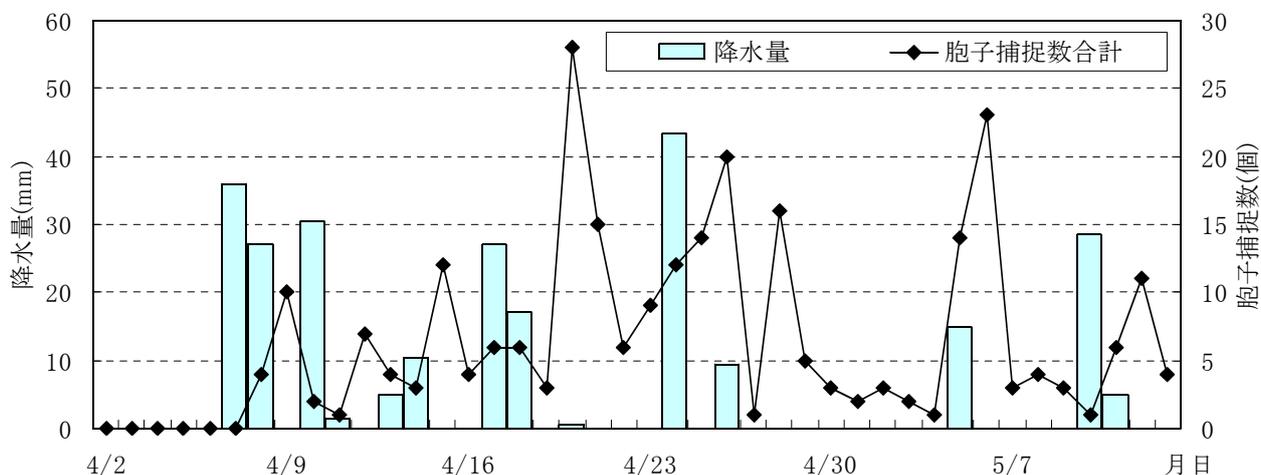
春先から降水量が多く、ムギは生育ムラが目立っています。特に農林61号で、当初の予想より生育がかなり遅れているほ場がみられ、出穂、開花時期もほ場ごとのばらつきが大きい状況です。赤かび病感染予防のための防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までで、出穂から3~4日後に当たります。すでに防除適期を迎えたほ場もありますが、防除をしていないほ場は、早急に防除を行いましょ。

2 今後の気象状況と赤かび病の発生予測

名古屋地方気象台4月23日発表の1か月予報によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みです。気温、降水量及び日照時間は平年並の予想となっており、赤かび病が多発する気象条件ではありません。しかし、今後の気象状況によっては注意が必要です。

3 赤かび病の感染生態

赤かび病の第1次伝染源は子のう胞子で、湿潤状態で飛散します。胞子の飛散状況を選択培地を用いて調査(夕方設置し翌朝回収)した結果、降雨があった当日から2日後にかけて胞子が多く採集されました(下図)。したがって、降雨後は、赤かび病菌に感染する可能性が高まります。雨が降る前の予防的な防除が効果的ですが、できない場合は、雨がやんだら、早急に防除を行うことが大切です。



赤かび病菌の孢子捕捉数と降雨の関係(平成20年)

調査:病害虫グループ(農業総合試験場コムギほ場)、孢子捕捉数は9cmシャーレ選択培地3枚の合計

4 防除対策

平均気温が18℃を超え、降雨が続く場合は、乳熟期頃を目安に2回目以降の防除が必要になります。防除薬剤は、治療効果のあるトリフミン乳剤(小麦)・水和剤(麦類)、チルト乳剤25(小麦)などから地域の実情に応じて選んでください(平成22年4月5日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参照)。

なお、排水不良のほ場では、本病の発生が助長されますので、排水溝の手入れなどを実施しましょう。